

言葉や絵で表現く表現を受止める>～子どもたちが考えた「土の中のあずくん」～

学校法人 千葉花園学園 穴川花園幼稚園 (千葉県千葉市)

【主題の設定理由】赤いきれいなママ (小豆) が、一粒からたくさんに増え、あそんだり、食べたり、お祝いできるといふ食材のすばらしさを、体験から学ぶ。

お手玉をいただき、数え歌を歌いながらお手玉遊びをすることを教わり、喜んで遊んでいたある日、お手玉の中から出てきた「あずき」と出会ったことをきっかけに、「あずくんと、いろいろな旅に出よう！」というテーマの活動が展開されました。保育者が、タネ=ママ=あずきの載っている本を提示できるようにしてあったので、「タネじゃないかな」「蒔いてみよう」とあずき会議が行われ、活動が進みました。

	あずくん (小豆) の様子	子どもの活動と姿	先生の援助	子どもが気づいたこと・学んだこと
5月	あずき会議	もちろん、賛成多数!		
	畑を耕す	あずくんのお布団をやわらかくしよう!		
		これから“あずくんぼうやのタネ”を蒔いて、ずうっとお世話しよう・・・		
	あずくんの種まき	お手玉に夢中になって、毎日だれかがじょうずになってびっくり!	畑のなかの“あずくん”は、いったいどうしているでしょう? と想像する言葉がけ・・・	土の中を想像する。土の中の生き物にも関心を持つようになる
	水やり 虹が出る	「きつと、おともだちやかぞくとならんでねているね」畑以外の土や生き物にも興味をもつ	「あずくんは、真っ暗な土のなかで、よくねているのかしら?」「どうしているのかなあ?」と問いかけ、絵を描くよう促す。	イメージを一生懸命ひろげる
	土の中の“あずくん”を描く	薄茶色の画用紙に“あずちゃん”のことを想像して書いた。		あずくんの気持になって、出会った昆虫の種類を考えたり、その場面を創造して、お話を創作するなど、多彩なイメージの広がりや表現を引き出した。土の中を考えたり、関心をもつ機会となった。
	虹を観る (水やりの中で・・・)	M男「おみずがにじいろにひかっているー!」	「あずくんが、早く目を覚ますように畑に毎日水をまきましょ!」	自然現象の不思議さを知る
	芽がでる	「根って、したにのび、あかいかわをパカッとわって、芽がかおをだした。」 「あずくんの芽 (め) が出た。はじめまして・・・これからきみたちにまけない“アズキッズ”になるぞー! っっていつてる」	表現を受止める 	よく観察し、言葉や絵で表現 
生長 虫が集まる	葉っぱの上にあつまった虫たち・・・Sくん「畑は虫のようちえんなんだ!」	「害虫の意識でなくともいいかな?」と考える。	虫もみんな友だちの意識を持つ	

【子どもたちが考えた「土の中のあずくん」】

葉っぱの上にあつまった虫たち・・・Sくん「畑は虫のようちえんなんだね!」
「害虫の意識でなくともいいかな?」と考える。

虫もみんな友だちの意識を持つ

Kくん「あずくんのちかくには、ありくんがすんでいます」

Kさん「あずくんは土のなかで、すきないろにヘンシンしました」

Rくん「かぞくがいっぱいそろいました」

Jくん「にじいろのお水をかけてもらって、にじいろにヘンシンしました。」

Tくん「土の中からも、ぼくたちがかけたにじがあずくんにみえたんだ」

Aさん「そのにじのおかげであずくんは、おひさまいろにヘンシンしました」

Tさん「あずくんがおみずをたくさんので、よろこんでいるよ」

Rくん「みんなのあげたおみずが、なんと、あめだまになっちゃいました!」

Kくん「すごくたのしかった! だって、いろいろなむしにあえたんだもん!」

Rさん「まっしろいあかちゃんだんごむしにもあえて、いろいろなむしにいっぱいあえてたのしかった」

Mさん「かぶと、くわがた、だんごむし、もぐらにもあえて、たのしいたびだった!」

Mさん「あずくんのおともだちが、あそびにきたよ」

Sくん「あずくんが、おおきくなって“アズキッズ”になったらどんなきもちかなあ!」



	あずくん(小豆)の様子	子どもの活動と姿	先生の援助	子どもが気づいたこと・学んだこと
6月	開花	「あずくんは赤いけど、お花は黄色なの？ふーん！」	花の色や形をよく観るよう・・・	不思議!と感じる
7月	緑のさやが下がる。	「いんげんかなあ？」	「ほんと、にているねえ」	家にあるもの、周囲に注意が向く
8月	薄茶のさやになる。	「いろもかわっておおきくなってきた！」	よく観察する態度を受け止める。	日々観察
9月	さやが長くなり、少し太ってくる。中が見えているものがある。	「あかくてきれいだね!」「ちっちゃくてかわいいね!」「ならんでさやにはいつてるんだね。」		
	たくさん並んで実る。	「あの時、お手玉から飛び出したあずくん!」「あのルビーのママ、あずくんのお友だちがいっぱいにふえたんだ!」		
	「あずき」を収穫	茶色のさやを採って干し、中の“あずくん”を集めた。	もじ指導し、手紙を出す援助	手紙を書こうと一生懸命にもじをかく。手紙やもじへの興味関心を抱く。
	お手玉づくりへむけて・・・依頼の手紙	そよ風のおばあちゃんへお手紙をかいだよ!「あずくんがたくさんとれたので、お手玉をつくってください!」って。		

[まとめ] 種まき後の「あずくんはどんな土の中の旅をしているのだろうか?」とたくさん絵を描く活動はイメージをかなり広げた。畑の水やりでは、水に太陽光線があたって虹を発見!それがキッカケで運動会には、「レインボーパレードをしよう」まで発展した。ちょっとした機会や環境で興味・関心を示す幼時期に、小豆を「あずくん」と、擬人化し工夫することで親しみ、自主的にどんどん想像性や表現力を発揮した。

○同じ目標にむかって体験活動している中で、友だちと一緒に、畑の作物も喜んでいるなどと共感したことが、友だちに・・・作物に・・・とやさしい謙虚な気持ちになる。<協調性> ・先生、友だち、家の人に教えてあげよう!

- ・発表したり、友だちの話を聞いたりする
- ・あずくんを思い、雨を喜ぶ。

○のびのび見たもの、触ったもの、思ったことを先生や友だち父母にも伝えようとする中で、絵、文字、言葉が豊かになる。そして、もっと良く知ろう、伝えようとする。<表現力> ・イメージを絵に描く

- ・発見したら伝えたい!
- ・水撒きで虹を見て、運動会でレインボーパレードをする。

○体験は、自分の目で体で学ぶので、確かな判断力が磨かれる。<判断力> ・疑問に思ったら自分で納得しようと見に行く。 ・友達の話聞いて、自分の考えを言う。

○みんなの畑。自分たちの畑と家族のような意識を持つ。大豆や小豆やわたやにんじんに対して、土の中、雨や太陽、虫などかわるものには、つぎつぎ親しみをいなく。<共感> ・豆を擬人化して語りかけ、イメージをひろげる

- ・豆の気持ちになる
- ・気づいたことを友だちに話す

○体験は、予想したとおりに行かなかったり、みんなが積極的にかかわるので、たくさん物的・人的刺激が多い。柔軟な行動力と創造力が養われる。<創造力> ・土の中は見えないけれど・・・

- ・誰か(虫?)に食べられた!
- ・いつどうやってお豆になるんだろう!



参考文献) 生活探検大図鑑 田部井 満男編 小学館 1994
 校庭の自然とあそぼう「野菜とあそぼう」 山田 卓三編 農山漁村文化協会 2001
 手作り食品 バターホーム協会編 バターホーム出版局 1986
 そだてて あそぼう「ダイズの絵本」 国分 牧衛編 農山漁村文化協会 1998
 食で育む心と体 西尾市立寺津小学校 教育出版 2001
 坂本廣子の台所育児 坂本 廣子 農山漁村文化協会 1990

みどころ

お手玉から出てきた「あずき」を見つけたことをきっかけに、「あずくんのいる土の中」や「土の中にあるあずくんのこと」のイメージが広がるように、保育者は様々な援助を重ねました。特に、保育者が教材としてまとめた手作りの絵本「まめまめぶっく」は、子どもたちの身近な教材であり表現を引き出す効果的な環境になっています。「まめ」にもいろいろな種類があり、知っている「まめ」も、保育者が分かりやすく絵本に表現していることで、より興味を引くことにつながっています。こうした教材があったことで、あずくんの気持ちになり、出会う虫や土の中での出来事を想像し、表現を楽しむことができました。

さらに、お話を創造するなどの多彩なイメージの広がり引き出されたことで、表現力を養う取り組みになりました。表現することで子ども同士の互いの思いが伝わり、協調性や共感につながる経験をすることもできました。